

第 29 回札幌冬季がんセミナー

テーマ: 「いまがんを考える 2015 —がん薬物療法の最前線、今後の治療の方向と対策—」

日時

2015 年 2 月 7 日～8 日

会場

ロイトン札幌
札幌市中央区北 1 条西 11

代表世話人

加藤 淳二 (札幌医科大学医学部腫瘍・血液内科学講座 教授)

主催

公益財団法人札幌がんセミナー
大鵬薬品工業株式会社

後援

日本癌治療学会
日本がん予防学会

プログラム

開会挨拶

細川 正夫 (恵佑会札幌病院 理事長/(公財)札幌がんセミナー 理事)

代表世話人挨拶

加藤 淳二 (札幌医科大学医学部腫瘍・血液内科学講座 教授)

Session I がん薬物療法の最前線

進行胃癌に対する集学的治療の進歩

—DCS 療法による conversion therapy の可能性—

演者 佐藤 康史 (札幌医科大学医学部腫瘍・血液内科学講座 講師)
座長 高橋 昌宏 (JA 北海道厚生連札幌厚生病院 副院長)

切除不能・再発進行大腸がんの薬物療法

演者 吉野 孝之 ((独)国立がん研究センター東病院消化管内科 科長)
座長 小松 嘉人 (北海道大学病院腫瘍センター 診療教授)

骨髄線維症の治療：JAK2 阻害薬を中心に

演者 小松 則夫（順天堂大学医学部内科学血液学講座 主任教授）

座長 豊嶋 崇徳（北海道大学大学院医学研究科内科学講座血液内科学分野 教授）

軟部肉腫に対する新規分子標的薬 Pazopanib について

演者 平賀 博明（(独)北海道がんセンター腫瘍整形外科 医長）

座長 鳥本 悦宏（旭川医科大学病院腫瘍センター センター長）

肺がん化学療法の変遷と分子標的薬の役割

演者 山本 信之（和歌山県立医科大学内科学第三講座 教授/腫瘍センター長）

座長 秋田 弘俊（北海道大学大学院医学研究科腫瘍内科学分野 教授）

乳癌の生物学的特性と宿主要因

演者 山下 啓子（北海道大学病院乳腺外科 教授）

座長 平田 公一（札幌医科大学医学部消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座 教授）

Session II 今後の医療の方向と対策

今後の医療行政の展望

演者 二川 一男（厚生労働省医政局 局長）

座長 細川 正夫（社会医療法人恵佑会札幌病院 理事長）

がん診療に関する医療政策の今後の方向性

演者 古川 俊治（慶應義塾大学法務研究科・医学部外科 教授(兼任)/自民党 参議院議員）

座長 小熊 豊（砂川市立病院 病院事業管理者）

今後の医療政策について

演者 羽生田 俊（自民党参議院議員/日本医師会 参与）

座長 長瀬 清（一般社団法人北海道医師会 会長）

Session III DPC の評価と今後の方向

National Database から見る全国の癌治療の状況

演者 藤森 研司（東北大学大学院医学系研究科社会医学講座医療管理学分野 教授）

座長 檜村 暢一（手稲溪仁会クリニック 院長）

閉会挨拶

平野 聡（北海道大学大学院医学研究科消化器外科学分野 II 教授）